

口腔粘膜治療剤

# オルテクサー<sup>®</sup>口腔用軟膏0.1%

(トリアムシノロンアセトニド口腔軟膏)



## 特徴

- ・湿潤部へ付着し、患部を被覆します。
- ・淡いレモン風味で不快感を少なく使用できます。

## 有効・成分

100g 中 日局トリアムシノロンアセトニド 100mg

## 効能・効果

慢性剥離性歯肉炎、びらん又は潰瘍を伴う難治性口内炎及び舌炎

## 包装

5g

ゲル化炭化水素により、開放性の患部を覆い外部からの刺激を緩和します。  
唾液水分を吸収したカルメロースナトリウムが粘稠化。患部に付着します。

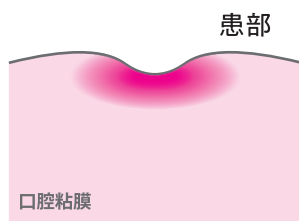
患部の  
被覆



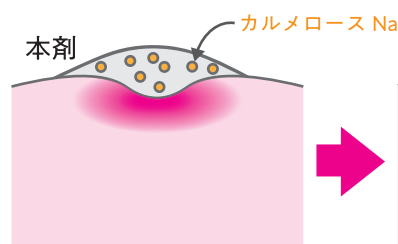
炎症の  
抑制

有効成分トリアムシノロンアセトニドが炎症性因子の産生を抑制。  
また、免疫機能に働きかけ、炎症を抑制します。

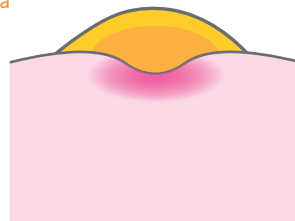
## イメージ



患部に本剤を塗布すると



カルメロースナトリウムの微粉末に唾液水分が浸透



高粘性の皮膜を形成して、患部を被覆する

禁忌(次の患者には投与しないこと) 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者。

貯法：室温保存  
有効期間：5年

日本標準商品分類番号

872646

承認番号 22100AMX00926000

販売開始 1988年 4月

口腔粘膜治療剤  
(トリアムシロロンアセトニド口腔軟膏)

# オルテクサー® 口腔用軟膏0.1%

ORTEXER® Oral Ointment

2021年9月改訂(第1版)の製品電子添文に基づき作成

## 2. 禁忌(次の患者には投与しないこと)

本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者。

## 3. 組成・性状

### 3.1 組成

販売名	オルテクサー口腔用軟膏0.1%
有効成分	100g中に日局トリアムシロロンアセトニド100mg
添加剤	ゲル化炭化水素、カルメロースナトリウム、サッカリンナトリウム水和物、香料

### 3.2 製剤の性状

販売名	オルテクサー口腔用軟膏0.1%
性状・剤形	微黄色～淡褐色で、微小粒子が均等に分散した軟膏である。
味・におい	特異な芳香があり、味は甘い。

## 4. 効能又は効果

慢性剥離性歯肉炎、びらん又は潰瘍を伴う難治性口内炎及び舌炎。

## 6. 用法及び用量

通常、適量を1日1～数回患部に塗布する。なお、症状により適宜増減する。

## 9. 特定の背景を有する患者に関する注意

### 9.1 合併症・既往歴等のある患者

#### 9.1.1 口腔内に感染を伴う患者

治療をやむを得ないと判断される場合を除き、使用しないこと。使用する場合には、あらかじめ適切な抗菌剤、抗真菌剤による治療を行うか、又はこれらとの併用を考慮すること。感染症の増悪を招くおそれがある。

#### 9.5 妊婦

治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合のみ投与すること。

#### 9.6 授乳婦

治療上の有益性及び母乳栄養の有益性を考慮し、授乳の継続又は中止を検討すること。

#### 9.7 小児等

長期連用により発育障害をきたすおそれがある。

#### 9.8 高齢者

患者の状態を観察しながら慎重に使用すること。一般に生理機能が低下している。

## 11. 副作用

次の副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には使用を中止するなど適切な処置を行うこと。本剤は、使用成績調査等の副作用の発生頻度が明確となる調査を実施していない。

### 11.1 重大な副作用

#### 11.1.1 口腔の感染症(頻度不明)

口腔の真菌性及び細菌性感染症があらわれることがある。このような症状があらわれた場合には適切な抗真菌剤、抗菌剤等を併用し、症状が速やかに改善しない場合には使用を中止すること。

#### 11.1.2 下垂体・副腎皮質系機能(頻度不明)

長期連用により下垂体・副腎皮質系機能の抑制をきたすおそれがある。

#### 11.2 その他の副作用

	発現頻度不明
過敏症	過敏症状
その他	口腔内の不快感(しびれ感など)、味覚異常、味覚減退

## 14. 適用上の注意

### 14.1 薬剤投与時の注意

14.1.1 使用後はしばらく飲食を避けさせること。

14.1.2 眼科用として使用しないこと。

## 16. 薬物動態

### 16.2 吸収

粘膜において受動拡散により吸収されると考えられる。<sup>1)</sup>

### 16.3 分布

イヌの頬粘膜に<sup>3</sup>H-トリアムシロロンアセトニドを付着させたとき、上皮およ

び上皮下層に分布し、特に基底膜直下の結合組織にある真皮乳頭において顕著であった。<sup>1)</sup>

### 16.5 排泄

イヌの頬粘膜に付着させた<sup>3</sup>H-トリアムシロロンアセトニドを粘膜表面から除去すると、3時間後までに85%以上が組織内から消失した。<sup>1)</sup>

## 18. 薬効薬理

### 18.1 作用機序

トリアムシロロンアセトニドは、糖質コルチコイド作用を主とする作用持続性のトリアムシロロン誘導体であり、抗炎症作用・抗アレルギー作用を有する。<sup>2)</sup>

### 18.2 生物学的同等性試験

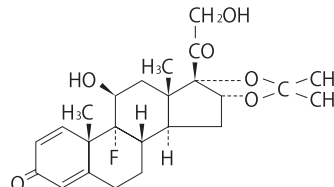
本剤と標準製剤について、モルモットを用いて皮膚PCA反応試験及び人工歯肉炎治療試験を行い比較検討した結果、両剤共にPCA反応の抑制並びに人工歯肉炎の治療率の上昇が認められ、両剤間に有意な差は認められず、両剤の生物学的同等性が確認された。<sup>3)</sup>

## 19. 有効成分に関する理化学的知見

一般名：トリアムシロロンアセトニド  
(Triamcinolone Acetonide)

化学名：9-Fluoro-11 $\beta$ ,21-dihydroxy-16 $\alpha$ ,17-(1-methylethylidenedioxy)pregna-1,4-diene-3,20-dione[76-25-5]

構造式：



分子式：C<sub>23</sub>H<sub>31</sub>FO<sub>6</sub>

分子量：434.50

性状：本品は白色の結晶性の粉末である。本品はアセトン又は1,4-ジオキサンにやや溶けにくくメタノール又はエタノール(95)に溶けにくく、水にほとんど溶けない。

融点：約290℃(分解)

本品は結晶多形が認められる。

## 22. 包装

5g

## 23. 主要文献

- 1) Addy M.: Archive of oral biology. 1980; 25: 809-817.
- 2) 第十七改正日本薬局方解説書, 廣川書店. 2016; C-3478-3483.
- 3) 株式会社ビーブランド・メディコーデンタル 社内資料(生物学的同等性試験)

## 24. 文献請求先及び問い合わせ先

株式会社ビーブランド・メディコーデンタル  
大阪市東淀川区西淡路5丁目20番19号  
TEL. (06) 6370-4182 FAX. (06) 6370-4184

## 26. 製造販売業者等

### 26.1 製造販売元

株式会社ビーブランド・メディコーデンタル  
大阪市東淀川区西淡路5丁目20番19号  
TEL. (06) 6370-4182

## GS1コード

調剤包装単位コード



(01)04987463190256

- その他、詳細は製品電子添文をご参照ください。
- 製品電子添文の改訂に十分ご留意ください。

## ■お取引材料店名

製造販売元 資料請求先

**Bee (株)ビーブランド・メディコーデンタル**  
本社：大阪市東淀川区西淡路5-20-19  
TEL: 06-6370-4182 FAX: 06-6370-4184

東京営業所：東京都千代田区神田錦町1-14  
TEL: 03-3295-6926 FAX: 03-3295-6927

問い合わせ先 ☎ 03-3295-6926  
土・日・祝日を除く 9:00～12:00  
13:00～17:00

弊社ホームページはこちら



https://bee.co.jp/